

トールフェスク「ウシブエ」「よかトール」 実規模実証展示ほ

管理課（福島県西郷村）では、牧草の優良品種を紹介するためトールフェスク「ウシブエ」と「よかトール」を【実証展示ほ】において栽培しています。

【実証展示ほ】の見学・説明は随時受け付けていますので、お気軽にお問合せください。

見学などの問い合わせ先：0248-25-2738（本所企画調整部管理課）

本冊子で使用する草種略号

TF トールフェスク OG オーチャードグラス IR イタリアンライグラス PR ペレニアルライグラス

実証展示ほ概要

展示品種：TF「ウシブエ」（越夏性、永続性に優れた中生の多収品種）

TF「よかトール」（高消化性が特徴の中生品種）

造成時期：令和6年9月 面積：3.9ha 利用形態：採草利用

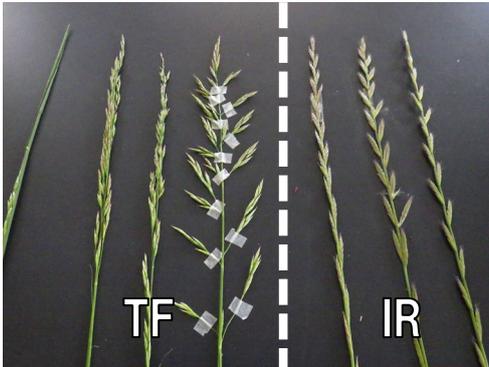


写真 1. TFとIRの穂

TFとIRは小穂の付き方が異なります。

TFの枝梗には4個以上の小花で形成される小穂が付着し、IRでは花軸に小穂が平面上に互生します。



写真 2. 採草利用1年目1番草刈取直前



写真 3. 1番草梱包作業

実証展示ほ造成前の草地には IR が優占していました。そのため TF 草地の造成にあたっては、埋土種子由来 IR の優占を心配しましたが、対策を講じたことで、TF が優占する実証展示ほを造成することができました。出穂した穂の形状（写真 1）から、採草利用 1 年目となる令和 7 年の 1 番草刈取直前の時点で、TF が優占していたことが確認できます（写真 2）。また、刈取後の残株の様子から、高い株数密度を確保できていることが確認できます（写真 3）。

TF 導入の効果

- ・定着後は大きい根系を持つため、高い環境適応性を発揮します。
- ・短い中莖で広がり、根がリフレッシュされるため高い永続性を発揮します。



写真 4. TF の中莖と子分けつ

左の親株から中莖が形成され、右の子分けつが形成されています。親株の左にも中莖が残っており、親株も子分けつとして広がった株であることがわかります。

TF の良さが実感できるのは、根系ができあがり、子分けつで広がりはじめてからです。長い目で見て評価してください。

TF 導入の留意点

TF と OG の種子は重量が異なります（写真 5）。TF 種子 1 粒の重量は OG 種子 2-3 粒に相当します。一般に、種子が大きい植物種ほど、高い Seedling Vigor（発芽後間もない稚苗期における生育の強勢）を持ち、定着率が高くなります。しかし例外的に、OG 種子の 2-3 倍の重量を持つ TF 種子の Seedling Vigor は OG よりも低いとされていることから（写真 6）、種子重量に見合う定着率と初期生育は期待できません。

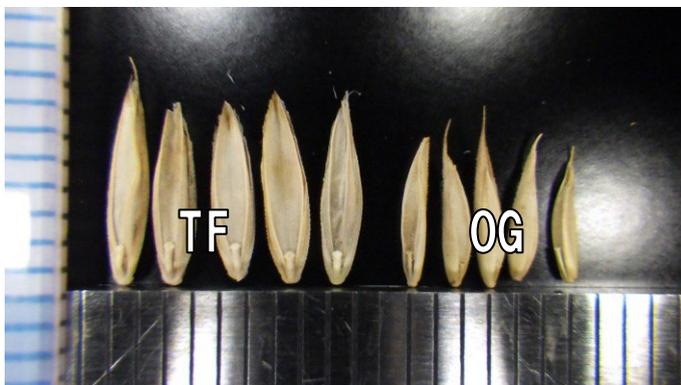


写真 5. TF と OG の種子



写真 6. TF と OG と PR の実生

播種 25 日後の TF 草地は牧草の密度が低く、広葉雑草が生えています（写真 7）。播種 25 日後の OG 草地は牧草の密度が高く、雑草はほぼ見あたりません（写真 8）。

TF は種子重量の割に、初期生育が緩慢なため、土壌表面を表土を覆う速度が遅く、雑草が繁茂してしまうことがあります（写真 9）。TF 種子を用いた草地更新作業では、入念な雑草処理を組み入れて、TF 種子の性質に適した方法で行うことで、雑草の少ない草地に仕上げることができます（写真 10）。草地更新方法の詳細は、家畜改良センター管理課にお問い合わせいただくか「トールフェスク栽培利用マニュアル」を参考にしてください。



写真 7. 播種 25 日後の TF

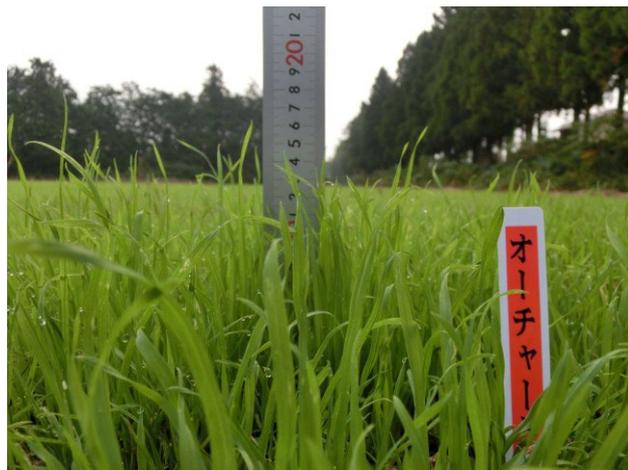


写真 8. 播種 25 日後の OG



写真 9. 播種 5 ヶ月後の TF（雑草処理なし）



写真 10. 播種 5 ヶ月後の TF（雑草処理あり）



[トールフェスク栽培利用マニュアル](#)

草地更新後の維持管理



写真 11. TF 採草地の刈取風景と刈高の確認

イネ科牧草草種全般に共通することですが、採草利用を行う場合は、刈高に注意しましょう。刈高が低すぎると貯蔵炭水化物の収奪が多くなり、刈取後の再生が不良になります。

貯蔵炭水化物の収支が悪化しやすい夏場は特に注意が必要です。残株の高さが 10cm 程度確保できていることを確認しながら刈取作業を行いましょう。10cm は握りこぶし（目印）ひとつぶんが目安です（写真 11）。

TF は晩秋から翌春までの分けつ力が高いので、最終番草刈取後と早春の施肥によって分けつを促し、株数密度を維持しましょう。